

「京都試作ネット」のご紹介

京都試作ネットは創設から20年以上にわたり、「試作に特化したソリューション提供サービス」を専門とし、企業や社会の抱える課題解決に向けて、ものづくり・コトづくり・価値(勝ち)づくりに取り組んでいます。代表理事を務める佐々木化学薬品株式会社の代表取締役 佐々木 智一氏に、コンセプトや強み、展望について伺いました。

京都を試作の一大集積地にするという夢に向かって、あらゆるチャレンジの“実験場”であり続けたい

一般社団法人 京都試作ネット

<https://kyoto-shisaku.com>



「顧客の思いを素早く形に変える」をコンセプトとする、試作に特化したソリューションネットワーク



京都試作ネットには全36社が参画

当法人は2001(平成13)年、試作に特化したソリューション提供を目的とするネットワークとして、機械金属関連の中小企業10社によって立ち上げられました。その原点となったのは、企業経営のあり方について悩む京都機械金属中小企業青年連絡会のメンバーが始めた、ピーター・F・ドラッカーの『現代の経営』を教科書にした勉強会です。企業経営の基本はマーケティングとイノベーションであり、その目的は「顧客の創造」にあるという思想に基づいて、インターネットを活用した新たな顧客創造の仕組みづくりを目指すこととなり、京都府や京都産業21の支援のもと誕生しました。

現在は、機械金属関連を中心に、装置・電気・樹脂・ゴム・マイコン・ソフト関連など、全36社が会員企業として参画しています。当初は図面をいただき形にする“ものづくり”に特化していましたが、徐々に構想・デザイン・設計など“ことづくり”にも携わるようになり、今では社会課題・実装といった“価値(勝ち)づくり”にも寄与する「協創試作」チームへと進化を遂げました。京都産業21に様々な案件をご紹介いただいたこともあり、相談件数は8000件を超え、試作実績は精細な金属加工技術を駆使した部品から、音楽・美容・医療など幅広い業界の製品、コロナ禍における簡易診療室、高性能医療用マスクまで多岐にわたります。

強みは、ドラッカーのマネジメント理論という共通言語を持っていること、社会や顧客の困りごとを解決するという高い意識を持ち、会員企業の経営者自らが汗をかいていること、そして、会員企業が持つ知識や情報、優位性さえも惜しみなく共有できる場となっていることにあります。本来は孤独である経営者が互いに刺激し合い高め合う、当法人ならではの文化こそが、20年以上続いてきた原動力だと感じています。

新たな産業を見いだす情報源となる「試作」を通じて幅広い産業との連携を深め、技術・文化の継承を目指す

当法人の使命は、「開発者に期待を超える試作品をどこよりも早く提供する」ことにあります。相談や問い合わせに対しては2時間以内の返答を徹底し、一つひとつの案件に最適な企業を選出。1社ではできない、複数社が集まるからこそできるチャレンジを大切にしてきました。それが結果として、京都試作ネット全体としてのレベルアップにつながったと思っています。

私が代表理事に就任した2021(令和3)年からは、新たな方針として「京都を試作する」を掲げました。地場の価値ある様々な産業と連携し、多種多様な試作に取り組むことを通して、京都の文化を活かした新しい産業=価値(勝ち)の創出に注力していきたいと考えています。その一環として、ベンチャーキャピタルや大手企業と連携して国内外のスタートアップ支援を行っているほか、2022(令和4)年5月からは「Umekoji MARket」において、ものづくりに携わる多様な人々のコミュニティの構築に携わっています。またオール京都の試作産業振興の中核となる京都試作センター株式会社では、中小企業とデザイナー・アーティストをつなぐ場となるセミナーや、中小企業から大企業への提案を支援する取り組みなどを展開しています。「試作と言えば京都」と思っていただけのような試作の一大集積地とすることを目指し、チャレンジし続ける“実験場”としてのさらなる活性化に努めていきます。



買い物かご自動除菌装置「ジョキンザウルス」は、会員企業15社が参加し、約4ヵ月でパイロット機を完成



ハーモニカ奏者からの依頼から誕生した「ハーモニカウォーマー」は、これまでに約700台を販売



高校生が考案した、高齢者の水分摂取をサポートする「ゴクゴクタイマー」を形にした。公益財団法人大隅基礎科学創成財団主催の「小中高生と最先端研究者とのふれあいの集い」に携わったりと、社会貢献活動も展開



Data

- 所在地 京都府京都市下京区中堂寺南町134番地
京都リサーチパーク2号館2階
- 発足 2001(平成13)年7月17日